

転倒防止のため、体が傾いているときに警告音などで高齢者自身に注意を促す機器

高齢者は「ふらつき」や「足のもつれ」など、自分の体の状況の把握が遅くなってしまうことがある。

これらが生じた時に「ピピピ」とアラームがなって、歩行中に立ち止まったり、立ち上がりを途中で中止（立ち上がるのを中断）したりなどして、

再度バランスを整え直し、  
行動を再開するように促す

ことが必要である。



高齢者が自分自身で注意するための機器

例えば、杖などにセンサーが付いていたり、腰に歩数計のような小さな機器を装着するなど。